

能楽のススメ

歯学科4年 上田千尋

新潟大学歯学部能楽研究会（以下能研）は平成22年に発足した新しいサークルです。「そんなサークルがあったの？」と初めてお聞きの方も多いと思いますので、この場をお借りして能研の活動についてご紹介しようと思います。

そもそも能楽とは何でしょう？ もともとは中国から伝わった舞や日本古来の田楽、延年の舞などが起源であるといわれていて、室町時代に観阿弥・世阿弥の天才父子が能として大成しました。能はシテ（舞う人）・地謡（バックコーラス）・囃子（笛・小鼓・大鼓・太鼓を演奏する人）の三者が一体となって作り出す総合舞台芸術です。江戸時代には公家の雅楽に対して能が武家の式楽となり、各地の大名が自ら稽古したり城内に能舞台を建てたりお抱えの能楽師に演じさせたりして盛んになりました。能は演劇なのでちゃんとストーリーがあり、予習してから見に行けば内容も理解できます。題材としては源氏物語や平家物語などの古典が多く、日本人として知っておいた方が良いでしょう。人物や故事・逸話が多く含まれ、歴史の勉強にもなります。能が生まれてから今までの長い間に新しい曲が次々作られる一方、人気のない曲は演じられなくなって消滅したりして、現在では二百数十曲のレパートリーが存在します。能の内容は大きく分けて神・男・女・狂・鬼の5種類があり、それぞれ趣きが違います。

……と、ここまででは若干堅い感じの解説でしたが、ここからは私達の活動について紹介します。基本的に毎週金曜の18時から21時まで、図書館の隣の池原会館2階の和室で練習しています。「いつも能面と装束を着て稽古しているの？」と思われるかもしれませんが、そんなことはありません。普段は普通の私服に足袋だけ履いて稽古していま

す。月に1～2回は観世流能楽師の中村先生のお稽古場（礎町）にお伺いして師匠稽古をして頂いています。稽古は主に謡曲と仕舞です。謡曲とは謡本と呼ばれる能の台本に書かれている文章を独特の節回りで謡うもので、みんなで一緒に謡って声がそろうと結構気持ちいいものです。仕舞とは曲の中の一番盛り上がる所を取り出して舞うもので、これも能独特の動きがあります。謡曲も仕舞も普段の生活とは全く違う世界なので覚えるのが大変ですが、慣れてくると楽しいです。備品としては各自で扇を購入し、これは謡曲と仕舞の両方で使います。あまり費用もかからないので気軽に始められると思います。

昨年は初の試みとして（発足したばかりなので何をしても初ですが）10月の新大祭で公演をしました。顧問の中富先生が仕舞「江野島」を、私が仕舞「猩々」を披露し、中富先生が昔所属していた東大観世会OBの方が3名来られて、着物の着付けや地謡の手伝いをしてくださいました。事前の宣伝が不十分でお客さんは多くありませんでしたが、紋付袴を着て人前で舞うのは初めてだったので貴重な経験になりました。

また、秋に従兄の結婚式で「高砂」の謡を披露してみたのですが、お祖父ちゃんお祖母ちゃんにかなりうけました。結婚式での一芸にも持ってこいでしょう。

他の活動としては能楽鑑賞があります。白山公園のりゅーとびあの中に立派な能楽堂があり、年に数回プロの公演があります。去年は「千手」「杜若」を観に行きました。りゅーとびあ以外でも毎年夏に白山神社境内で薪能が開催されていて、去年は「翁」「菊慈童」を鑑賞しました。稽古はせずに鑑賞の時だけ参加する「鑑賞部員」も大歓迎で

すので、是非気軽に連絡してください。

最後に今後の活動計画について書きます。最大の課題は部員の増加です。今は歯学部生しかいませんが、他学部にも広げていずれは全学サークルに昇格したいと考えています。部員獲得の為に新歓期に五十嵐の黎明祭や医・歯学部のサークル紹介に参加したり、ホームページの充実化を図ったりしたいと思います。部員が増えてくれば年に1

回自演会（公演）を開催するのも夢ではないと思います。また首都圏や関西には能楽部のある大学が多いので、ゆくゆくは交流を図りたいです。

ホームページのアドレスは <http://www.geocities.jp/niigatanoh/> です。連絡用のメールアドレスも載せています。もし興味のある方がいらっしゃったら是非見学に来てください☆



池原会館和室での稽古風景



左より成松、上田、斎藤

